

夏秋いちご通信 VOL.22

2010. 2



夏秋いちごで頑張ります。よろしくお願ひします。

夏秋いちご通信 VOL. 21 に引き続き、来年度から新規就農者として本格的に夏秋いちごの栽培を開始する、
弘前市の石岡雄将^{いしおかゆうすけ}さんを紹介しします。



石岡 雄将さん

【 やりがいのある仕事をしたい 】

学校を卒業後は、アパレル関係やホームページ制作などの仕事に就いていました。高校や専門学校で学んだのは、農業とは関係のない分野でしたし、りんご農家である実家では、手伝い程度の農作業しか行ったことがなかったため、本格的に農業に関わったことはありませんでした。

会社で働いていた頃は、毎月、一定の収入を得ていたものの、残念ながらやりがいを感じたことがなく、自分が本当にやりたいことは一体何だろうかと、自問自答する毎日でした。

転機となったのは、農業者は一人ひとりが経営者だという親の一言だったように思います。自分で一から作物を作り、生産物の善し悪しを評価され、値段が付いて自分に返ってくる。自分の技術と創意工夫で生活を組み立てられるということに、大きな魅力を感じました。

【 夏秋いちごで頑張りたい 】

夏秋いちごを選んだのは、まずひとつに青森の夏場の冷涼な気候が、夏秋いちごに向いていることです。次に、これは、実家の農業を手伝っていた時に感じたことなのですが、りんごの場合、台風や雹などの天災が来ると、一年間、手間暇をかけたものが、それだけでだめになってしまうことがあります。しかし、夏秋いちごは1年間に何回も収穫できるので、たとえ一度失敗しても挽回のチャンスがあるということです。その点で、リスクが少ないと思いました。

そこで、2009年2月から1年間にわたって、黒石市にある夏秋いちごモデル団地の村元清光さんの研修生となり、夏秋いちごの栽培技術全般や経営管理について、いろいろと教えていただきました。

当初は、村元さんの指示でその時々作業をこなすだけでしたが、夏秋いちごの生理生態がわかってきて、作業の全体を把握できるようになるにつれ、こうすればもっと効率的ではないのか、この点に気をつけなければならないのではないかなど、自分で考えて仕事を進めることができるようになりました。また、同時に作業自体が面白くなり、夏秋いちごがとても可愛らしく思えてきました。

研修中には、スリップスの被害にも遭い、一作分を収穫できなかったり、苗作りに失敗して雑草の方が伸びてしまい、いちごの収穫どころか草むしりの作業におわってしまうなど、失敗も数え切れないほど経験しました。

あっという間の研修期間を終了し、いよいよこの春から約300坪の自分のハウスで、サマールビーとなつあかりの栽培に取りかかる予定です。小さい面積ながらも経営者の仲間入りかと思うと、身が引き締まります。

将来は、生産者仲間を増やして、国産の需要に応えられる良質ないちごを作っていきたいと考えています。みなさん、ご指導よろしくお願ひします。



ハウス設置中の石岡さん

県内の夏秋いちご産地の動きをお知らせします。

一年中楽しめる滞在型の観光農園「アグリ」の里おいらせ」。県内最大級の観光いちご園を併設しています。今回は、株式会社アグリ」の里おいらせ（代表取締役：苫米地義之氏）の今年度の動きなどについてお知らせします。



苫米地代表

【 苫米地代表から一言 】

アグリ」の里おいらせでは、平成 19 年度青森県「冬の農業」産地拡大施設整備事業、20 年度「夏秋いちご」日本一飛躍産地育成事業の補助金助成により、鉄骨ハウス及び高設栽培設備（合計 4,124 m²）を整備し、夏秋いちごについては、昨年よりペチカを主体として栽培を開始しました。

おいらせ町の近隣地域は、冬は雪が少なく、また、夏はヤマセの影響により冷涼の気候であるため、一季成り性品種、四季成り性品種のどちらも栽培可能です。夏秋いちごについては、苗の供給から栽培指導・販売までの一貫体制を整えているということで、(株)ホープの四季成り性品種ペチカを選択しました。

高設設備による栽培方式のため、苗床は椰子ガラを使用し、液肥の EC 濃度とかん水量、かん水の時間帯、換気等には常に細心の注意を払い栽培していましたが、夏秋いちごは初めてということもあり、定植時の根の張り具合が思わしくなく、予定よりも収穫が1か月以上遅れてしまうなど本当に苦労しました。昨年は、販路も含め試行錯誤の連続でしたが、その分、貴重な経験やデータを得ることが出来たと考えております。

次年度以降、夏秋いちごについては、

- ① 自家増殖可能な品種にて取り組みたい
- ② できるだけ、講習会への参加や取組事例の視察等により栽培技術の向上を図りたい
- ③ 規格外を自家製アイスクリームやジャム等の加工商品に使用することにより付加価値を高めたい
- ④ 販路についても、出来るだけ自社にて確立を図りたい

以上を重点項目とし、夏秋いちごの生産に取り組んでいきたいと考えております。



観光いちご農園

【アグリ」の里おいらせ】

年間を通して楽しめる体験型の観光農園。「見て、収穫して、食べる」をテーマとして、バナナやパパイヤ等の熱帯フルーツ栽培をはじめ、県内最大級のいちご農園も併設。新鮮な地元農産物を中心にハウス栽培のフルーツも販売。2009年8月には農園レストランも開設し、地元の食材にこだわったメニューや栽培したいちごを使ったケーキなどを提供している。

知的障害者の雇用の促進を図るなど、農業と福祉を結びつけた事業も展開しており、青森県のアグリビジネス振興に大きく貢献しているとして、今年度の「あおぎん賞」を受賞している。

..... 夏秋いちごの産地づくりに向けた情報を、毎月お届けします。

青森県農林水産部 農産園芸課 野菜花き振興グループ
〒030-8570 青森県青森市長島 1-1-1 TEL 017-734-9481

